

■学校経営のポイント

小1プロブレム&中1ギャップへの対応

小島 宏

学級崩壊や授業崩壊が顕在化したのは平成7年頃
からで、呼応して小1プロブレムが話題にのぼり始
めた。少し遅れて中1ギャップにも関心が集まり出
した。それからかなりの時間が経過しているが、そ
の解決に妙手は打たれていないようである。

現象から見た実態

教師の体験を集約すると、授業中の私語や勝手な
行動、徘徊、教室抜け出し、教師の指示に従わない、
トラブルの頻発などが小1プロブレムと中1ギャッ
プの実態としてあがっている。加えて中1の生活や
学習の不適應、不登校急増も指摘されている。

要因と思われること

それらの要因として、我慢できない、基本的な生
活習慣が定着していない、家庭のしつけが不十分、
教師の個別指導や集団指導の力不足、小1や中1の
指導が不適切、教師が児童生徒の変化に対応した指
導や体制がとれていないなどがあげられる。

また、幼保・小や小・中の接続の問題、小・中の
生活や学習のルールの一貫性のなさ、生徒指導にお
ける相互不信（甘やかし自立させていない、きめ細
かさがない等）、授業の進め方の違いなども指摘さ
れている（参考：東京都教育委員会「東京都公立小・
中学校における第1学年の児童・生徒の学校生活へ
の適応状況にかかわる実態調査」平成21年7月）。

これらを参考に、自校の実態と要因を再確認し、
方策の策定と実施につなげていくようにしたい。

教師のまなざし

「あの子がいるから大変」「あの子が欠席してほっ
とした」と枠外に置いたり、「勉強はともかく静かに
落ち着いていれば十分」と目標値を下げてしまっ
たりすることがあっていいものだろうか。

管理職は、いかなる児童生徒にも教育的愛情を持
って向き合うよう教師を意識づける必要がある。

指導・対応のポイント

事例ごとに指導・対応することが基本であるが、
大まかなポイントを列挙すると下記のようなようである。
○幼保・小の連携により、集団行動や座学の習慣を
徐々に形成する。

○小・中で生活や学習のルールを一貫する。

○小学校6学年と中学校1学年の授業の進め方を調
整し、進学時の戸惑いを最小化する。

○小学校高学年において、教科担任制を取り入れて、
大勢の教師から学ぶことに抵抗感をなくす。

○個に応じた特別支援は、全ての児童生徒の指導の
基本原理であることを全教師が認識する。

○綿密なスタートカリキュラムで、「こんなことはで
きて当たり前」と思わず、知らないことやできな
いことは具体的に教える。

効果のあった取り組みの例

現在、多くの学校・教師が模索しているが、以下、
指導・対応で効果のあった例を紹介する。

〈小学校〉生活や学習のルールを丁寧に指導する。
係や当番など簡単な仕事をさせ、実行したらほめ
て自信を持たせる。教室正面の掲示は学級目標程
度に簡素化し、気が散らないようにする。指示は
一度に一つとする。授業は、15分区切りの活動型
と思考型、話し合い型を組み合わせ、変化をつけ、
集中力を高める。良い点を見つけてほめる肯定的
評価を重視し、良い点は保護者にもこまめに連絡
する。

〈中学校〉最初はきまりや学習ルールを丁寧に指導
する。説明調の授業を改善し、生徒に活動させる。
授業中のC（見取り）、A（支援）を充実する。肯
定的評価で自信を持たせる。学習の意義を理解さ
せ、自分の将来への夢を持たせ、前向きにさせる。
（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●子どもの様子にピタリとはまる 1588 文例！ 6月26日刊

『小学校通知表ポジティブ所見辞典』

【編集】土田雄一 四六判変型・312頁／定価（本体1,800円＋税）

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488 をご利用ください（24時間受付・即日発送）